

綾瀬市立寺尾小学校

研究テーマ：『主体的に向き合い、高め合う子』

～自分の考えをもつことと、友だちとの学び合いを大切にした授業を通して～

1 実践の目的

本校の児童は素直でどの学習も意欲的に取り組もうとする。また地域特性から様々な国とつながりをもつ児童もあり、言語や文化などが違う多様な他者に対しても、それを受け入れながら、ともに過ごそうとする姿も見られる。

しかし試行錯誤したり、考え続けたりする力に課題がある。また物事をいろいろな視点で見て考えることが十分ではなく、短絡的な判断をし、行動を決定してしまう様子が見られる。さらに他者とのかかわりの中から学びを深めることが十分でない。

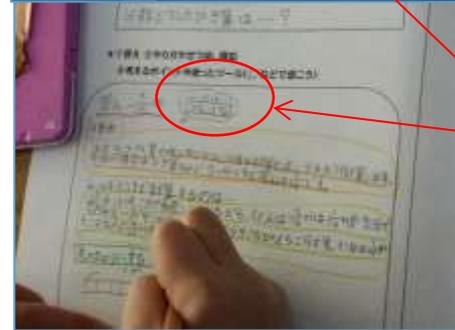
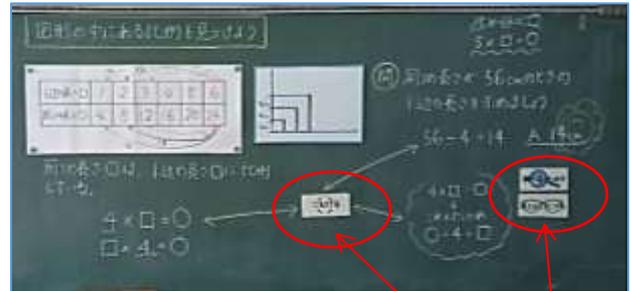
そこで、研究主題を『主体的に向き合い、高め合う子』とし「自分の考えをもつことと、友だちとの学び合いを大切にした授業を通して」研究を行い、「言葉を使って、自分の気持ちや考えを伝え、理解し合う力」「多面的に物事を見、根拠をもって判断する力」「自分に合った目標を持ち、それに向けて努力することができる力」の3つの資質能力を育成することとした。

2 実践の内容

(1) 「考えるツール」を活用した授業改善

①つなげる②見えるようにする③調べる・ためす④比べる⑤聞く・話すの5つのツールを活用させることで、児童自身が、これまでの経験や既習事項の内容等から自分の考えをもち、現状では解決できないと考えられる問題や未習・未知の問題に出会って

も、粘り強く問題解決に取り組めるようにした。



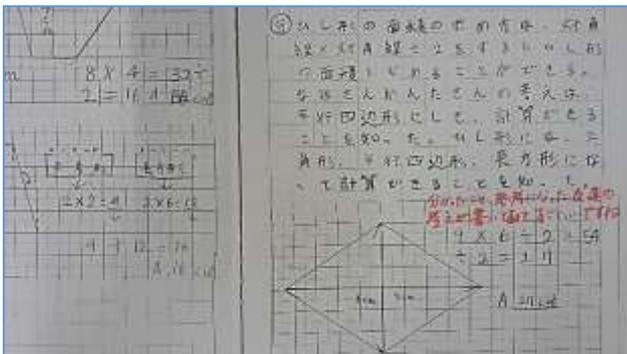
考えるツールを活用した授業

(2) 授業スタイルの共通化

「あやせ授業モデル」「あやせノートモデル」を教室に掲示した。授業モデルの中の「考えを広げる・深める」段階では、ペア学習やトリオ学習、グループ学習を取り入れ児童同士が考えをアウトプットできるようにした。



また振り返りを児童にしっかりと文章表記させるようにした。



(3) 研究授業と講師による講義

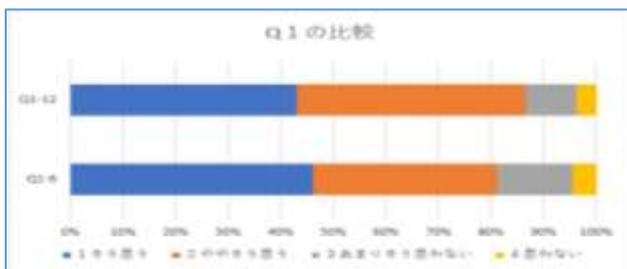
校内研究授業では、低・中・高学年・特別支援学級で1回ずつ合計4回研究授業を行った。校内研究に向けては、全職員で教材研究を行い、どのような学び方によって児童がより主体的になるのか、身に付けたい力は何なのかの確認を行った。

授業後と夏休みには、講師から児童に身に付けていきたい資質能力をどのような学び方で育むのかという視点で講義をいただいた。

3 実践の成果

○新たな課題に向き合う姿勢

【新しい勉強や、わからない問題を考えることは好きですか？】

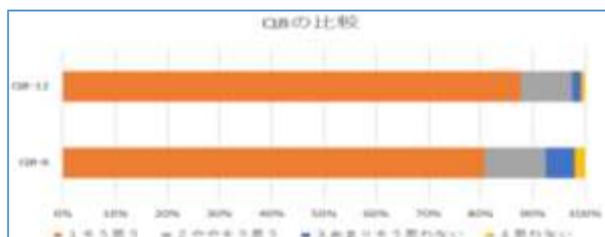


上の図は、6月と12月に行った児童の意識調査の結果である。多くの児童が『新しい勉強やわからない問題を考えることは好きですか？』という問いに対して、前向きな回答をしている。これは、課題解決時に躓いても、数年間研究の手立てとして取り組ん

できた「考えるツール」を活用して自らの力で問題に取り組もうとする意識が高まってきたからであると考えられる。

○学び合うことの意義

【友だちの考えを聞いたり、自分の考えを話したりすることは大切だと思いますか？】



また、多くの児童が友だちとの学び合いの大切さについて肯定的に回答している。理由の記述には、「友だちになれるし、仲がもっと仲良くなれるし、自分だけより勉強ももっとわかるからです」「友だちの考えが、次に自分が考える時のヒントになることが多いから」があり、認め合ったり自分の考えを伝えたり聞いたりして考えを深めていくよさを感じながら学んでいることがわかる。

4 今後の展開

今後はモデルを活用した授業をさらに推進し、あやせノートモデルにある、振り返りのポイントに沿った振り返りの記入を行っていく。その中で、「自身の授業の展開の仕方」「子どもにどのような力をつけると、モデルにそった授業になるのか」という視点で授業を見つめなおし、本校児童に必要な実践や視点・考え方をボトムアップで生みだしていきたい。

また、児童のよりよいノートを全学年全クラス、廊下等に掲示することで、児童に振り返りの際の視点を持たせ、振り返りを行うことの有用性について、改めて意識を高めていけるようにしていきたい。